

著者紹介

内海 麻利（うちうみ まり） 駒澤大学法学部教授

〔略歴〕

京都市生まれ。1998年横浜国立大学大学院工学研究科博士課程修了。博士（工学）。都市計画における法令と条例の関係をテーマとして学位（工学）を取得したのち、都市計画を素材として、行政学、行政法学、都市計画学の観点から研究する。駒澤大学法学部政治学科准教授、パリ第Ⅷ大学フランス都市計画研究所客員研究員などを経て、2012年より現職。

〔著書〕

『都市計画の構造転換——整・開・保からマネジメントまで』（鹿島出版会・2021年・共著）、『縮退の時代の「管理型」都市計画——自然とひとに配慮した抑制とコントロールのまちづくり』（第一法規・2021年・編著）、『地方自治論——変化と未来』（法律文化社・2018年・共著）、『縮減社会の合意形成——人口減少時代の空間制御と自治』（第一法規・2018年・共著）、『都市と環境の公法学——磯部力先生古稀記念論文集』（勁草書房・2016年・共著）、『まちづくり条例の実態と理論——都市計画法制の補完から自治の手だてへ』（第一法規・2010年・単著）、『住民主体の都市計画——まちづくりへの役立て方』（学芸出版社・2009年・共著）、『川崎市政の研究』（敬文堂・2006年・編著）、『景観まちづくり』（丸善出版・2005年・共著）、『エリアマネジメント——地区組織による計画と管理運営』（学芸出版社・2005年・共著）など。